野生動物
Wildlife

森、海、ジャングル、サバンナ、実験室……
フィールドを駆けまわる研究者たち

京都大学野生動物研究センター
Wildlife Research Center of Kyoto University

世界を飛びまわる！
野生動物研究センターの研究者たち

Running around the world
Researchers at the Wildlife Research Center

この世界には、多様な動物たちが暮らしています。動物たちを見つめていると頭に浮かぶ「ハテナ」たち。この「ハテナ」を追いかけて、研究者たちは世界各地の動物たちのもとに赴いています。各地から届いた研究者たちの「声」を紹介します。

人間ってなんだろう？ チンパンジーから迫る心

Understanding the mind of chimpanzees and other animals

平田 聡 教授

Satoshi Hirata

対象動物●チンパンジー
調 査 地●熊本サンクチュアリ

人間ってなんだろう？　そして、「人間ってなんだろう」と思う心ってなんだろう？そんな疑問に導かれて、ヒト以外の霊長類の仲間たちを研究する道に進みました。1996年に大学院に入学してから、ヒトに最も近縁なチンパンジーが研究対象です。彼らの社会的知性の研究を通じて、心の進化に迫りたいです。これまでに、動物園のトラ、野生のスナメリ、ユキヒョウ、雲南シシバナザル、ツシマヤマネコ、ウマなど、いろいろな動物を研究対象にする大学院生を受け入れてきました。

熊本サンクチュアリ
普段は京都暮らしですが、定期的に熊本県宇城市の熊本サンクチュアリで活動しています。ここではチンパンジーとボノボが飼育されています。研究と同時に、彼らの福祉を向上させる活動もしています。

野生動物の個性をDNAから予測する

Analyzing DNA to reveal various secrets of wildlife including kinship, personality, and age

村山美穂 教授

Miho Murayama

対象動物●霊長類、ゾウ、サイ、キリン、イルカ、イヌ、ネコ科、猛禽類など
調 査 地●実験室、ガーナ

私たちヒトは一人ひとり違います。同じように野生動物たちも、同じ種であっても個体ごとに違っています。鍵はDNA。動物にできるだけ影響を与えないようにフンや羽根を集め、取り出したDNAを個体の観察情報とともに保存しています。DNAを調べて行動や性格を予測できるか、DNAのメチル化から年齢が推定できるかなど、新しい解析法にチャレンジ。DNAから得られる情報を増やし、保全や共生に役だてる手段を探っています。

フィールドに飛び込み、動物の暮らしをまなざす

Venturing into the tropical rainforest: Revealing the secret lives of elusive large mammals through long and patient observation

松田一希 教授

Ikki Matsuda

対象動物●テングザル、オランウータン、カニクイザル、ブタオザル、ボルネオゾウなど
調 査 地●ボルネオ島

世界にはさまざまな動物が暮らしていて、それぞれの環境に適応して生きています。動物がどのように進化し、現在の生息環境に適応してきたのか、霊長類を中心に探究しています。2005年から東南アジア・ボルネオ島の固有種であるテングザルの研究をはじめました。現在はオランウータンなどの霊長類だけでなく、ボルネオゾウなど、ほかの哺乳類の研究にも取り組んでいます。

卵子を保存して、次世代につなげる

Wildlife conservation using reproductive technologies: Preserving female germ cells in endangered birds and mammals

藤原摩耶子 特定准教授

Mayako Fujihara

対象動物●ツシマヤマネコ、ヤンバルクイナをはじめとする国内希少種。国内飼育下の哺乳類、鳥類。
調 査 地●実験室（主に顕微鏡の前）

生殖細胞の保存と活用をとおして、希少動物の保全に貢献すべく研究中。動物園・水族館や環境省と連携して、国内の野生下や飼育下でメスの希少動物が亡くなると、卵巣を送っていただき、将来的な繁殖活用を見据えて卵子の保存・蓄積に取り組んでいます。保存した卵子の活用にむけて、モデル動物での研究も。メスの卵巣から回収できる受精可能な卵子の数には限りがあります。未熟な生殖細胞の凍結保存と体外発育の研究に取り組み、性成熟段階にかかわらず動物の生殖能力を保全する、新たな手法の確立をめざしています。

幸島観察所
約90頭のニホンザルが生息しています。1948年に京都大学によるニホンザルの調査が開始。霊長類学発祥の地として知られ、現在も幸島の特性を生かした研究が進められています。

歴史ある調査地で現在も調査を継続中

Monitoring Japanese monkeys on Koshima Island, the birthplace of Japanese Primatology

対象動物●ニホンザル
調 査 地●宮崎県幸島

鈴村崇文さん：宮崎県にある観察所に常駐し、幸島に生息する野生ニホンザルの調査をしています。各個体の個体識別をはじめ、群れの構成の変化や生年月日、体重などを細かく記録しています。

広大な海に生きる動物を追跡

Tracking the oceanic way of life studying marine mammals

三谷曜子 教授

Yoko Mitani

対象動物●オットセイ、アザラシ、シャチ、ラッコなどの海棲哺乳類
調 査 地●北海道などの海の上

生活の一部や丸ごと全部を海の中で過ごすオットセイやアザラシ（鰭脚類）、シャチなどの鯨類、ラッコといった海棲哺乳類を研究しています。日が照りつけ、風が吹きっさらしの船上で、朝から晩まで双眼鏡を覗いて、広大な海に点のように浮かぶ体や、波しぶきのような潮吹き（クジラの呼気）を頼りに彼らを探します。行動の邪魔にならないように追跡して記録を取ったり、捕まえて記録計を装着したり、ときには漁船に乗って海棲哺乳類と漁業との競合の現場を調査したりと、フィールド三昧です。

原生林が残る屋久島で調べる動物たちと自然の変化

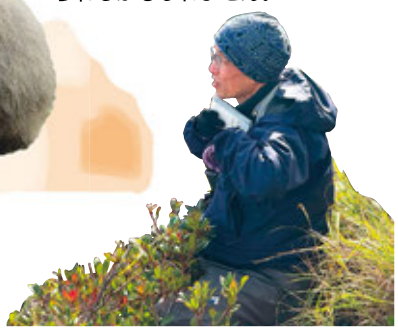
Comparing mammals living in primary and secondary forests on Yakushima Island

杉浦秀樹 准教授

Hideki Sugiura

対象動物●（ニホンザルの亜種である）ヤクシマザル、ヤクシカなど
調 査 地●屋久島の低地の照葉樹林

屋久島に残る貴重な原生林と、約70年前まで伐採されていた二次林で、サルやシカの密度調査を行っています。二次林は徐々に原生林へと変化していて、そこに住む動物たちの数も変化しています。これは日本中で起きていることですが、この先の未来、自然はどうなっていくのでしょう？ 原生林の動物の状態を知ることで、その手がかりが得られるかもしれません。



遺伝情報を駆使して、絶滅から救う

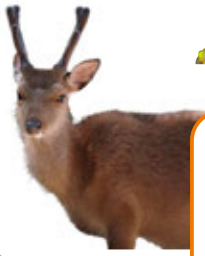
Conducting research on conservation genetics and genomics of wild animals and birds

佐藤 悠 助教

Yu Sato

対象動物●ニホンイヌワシ、ヤンバルクイナなどをはじめとする国内の鳥類や哺乳類
調 査 地●実験室やコンピュータ上

専門は保全遺伝学。野生の哺乳類や鳥類の遺伝的多様性の研究です。遺伝的多様性はその動物が将来も存続できるのかという指標の一つ。近親交配をしていないか、生存や繁殖に不利な遺伝的な特徴が現れていないか、絶滅のリスクなどの理解に重要です。近年、希少な動物（希少種）はもちろん、私たちに身近な動物（普通種）でも個体数の減少が報告されています。哺乳類、鳥類、希少種、普通種を分け隔てることなく、多様な動物で遺伝的多様性を解析し、日本の野生動物保全を考えることがやりがいでもあり、楽しさでもあり、そして難しさでもあります。



屋久島観察所

屋久島観察所ではシカ、植物、鳥、ウミガメ、キノコなど、さまざまな生き物の研究がされています。なかでも世界遺産の森にすむヤクシマザルは、10群ほどの群の観察を続け1頭1頭の顔や身体の特徴を記録して、誰が誰かをわかるようにしています。この基礎的な情報をつかいながら、大学院生を中心にいろいろな研究をしています。

ヒトの進化の不思議をチンパンジー、ボノボから探る

Understanding human evolution through studies on wild bonobos and chimpanzees

橋本千絵 助教

Chie Hashimoto

対象動物●霊長類（とくにチンパンジー、ボノボ）
調 査 地●ウガンダ（カリンズ森林保護区）、ワンバ（コンゴ民主共和国）

遺伝的には98.8%ヒトと共通しているのに、見た目はもちろん、社会構造もヒトとは違うチンパンジーとボノボ。彼らを研究することで、ヒトの進化の不思議を探りたいです。とくに、メスの社会関係や性行動に注目しています。双眼鏡で彼らの行動を観察するほか、糞や尿からDNAやホルモンを取り出して分析する方法にも取り組んでいます。地域住民との共存をめざす、保全活動にも取り組みます。

謎に包まれたベニガオザルの生態を追う

Conducting socio-ecological studies on wild stump-tailed macaques in Thailand, including behavior, genetics, cognition, and conservation

豊田 有 助教

Aru Toyoda

対象動物●ベニガオザル
調 査 地●タイ王国ペッチャブリー県カオクラプック・カオタオモー保護区

ベニガオザルは近縁種に類を見ない特殊な行動や生態を持つ種ですが、野生下での研究はほとんどされていません。タイに単身渡り野生ベニガオザルの調査地を開拓し、観察を継続して10年になります。行動観察によるオスの交尾戦略の解明、遺伝分析による繁殖成功の評価などのほか、カメラトラップを用いた社会構造の復元、表情や音声に関する研究など、多様なテーマで研究を実施中。現在は地域個体群の保全にむけた取り組みも推進しています。

京都大学野生動物研究センターは、絶滅が危惧される大型の動物に焦点を当てて、「心」、「身体」、「命」、「ゲノム」、「健康・長寿」の５つの観点から研究をすすめています。

The Wildlife Research Center focuses on large endangered animals and conducts research from five perspectives: “mind”, “body”, “life”, “genome”, and “health and longevity”.

ミッション

Our Mission

1 絶滅の脅威にさらされている動物の保全と理解
野生動物の自然生息地での保全の促進とともに、飼育環境での健康と福祉を向上させる。科学的アプローチで人間の本質の理解にもつなげる。

2 学問の統合と国際協力
フィールドで応用可能な新しい学問分野を創造し、人間とほかの生物との共生の実現をめざして国際的な協力を推進。

3 環境教育の推進
自然保護区、動物園、水族館、博物館との連携を通じて、環境教育を推進。

❶ **Conservation and Understanding of Endangered Animals**
We work towards promoting conservation in natural habitats and enhancing health and welfare in captive environments. Utilizing scientific approaches, we aim to deepen the understanding of human nature.

❷ **Integration of Academic Disciplines and International Cooperation**
We create new academic fields of study relevant to real-world settings and support international cooperation to promote coexistence between humans and other living beings.

❸ **Promotion of Environmental Education**
We aim to advance environmental education through collaboration with nature reserves, zoos, aquariums, and museums.

附属観察所

Research Facilities

- **屋久島観察所** Yakushima Field Station
- **幸島観察所** Koshima Field Station
- **熊本サンクチュアリ** Kumamoto Sanctuary

海外の研究調査地（抜粋）

Overseas Research Locations

アラスカ／韓国（チェジュ島）／インド／ウガンダ／ガーナ／ガボン／ギニア／コンゴ民主共和国／サウジアラビア／インドネシア／タンザニア／チリ／ブラジル／ポルトガル／マレーシア／モンゴル／タイ王国／グリーンランド／モーリシャスなど
日本各地の森林ほか、水族館や動物園とも連携し、研究調査を進めています。

Alaska / Jeju Island, South Korea / India / Uganda / Ghana / Gabon / Guinea / Democratic Republic of the Congo / Saudi Arabia / Indonesia / Tanzania / Chile / Brazil / Portugal / Malaysia / Mongolia / Thailand / Greenland / Mauritius / etc.

In addition to various locations across Japan, we also collaborate with aquariums and zoos to conduct research and investigations.

京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（PWS）

The Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, Kyoto University

新たな研究、教育、実地経験の基盤を提供しながら、学術分野全体とともに成長する地球規模のリーダーを育成することをめざすプログラムです。

国連や NGO などの国際組織で活動する保全専門家、博物館や動物園、水族館の発展や拡張に取り組む学芸員、特定の国や社会でのアウトリーチ活動の専従者などとしての活躍が期待されます。

This program aims to nurture global leaders while providing a foundation for new research, education, and various hands-on experiences.

Graduates are expected to play active roles as conservation experts working at international organizations such as the United Nations and NGOs, curators contributing to the development and expansion of museums, zoos, and aquariums, and professionals engaged in long-term outreach activities in various countries and communities.

京都大学野生動物研究センター
Wildlife Research Center of Kyoto University
〒 606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24
2-24 Tanaka-Sekiden-cho, Sakyo, Kyoto, 606-8203, Japan

Email: web-info@wrc.kyoto-u.ac.jp
Website: http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/

production/cooperation: Kyoto Tsushinsha Press
illustration: Kanon Tanaka
design: Hitoshi Kohsaka

2025 April